



愛らしい表情の人形たち



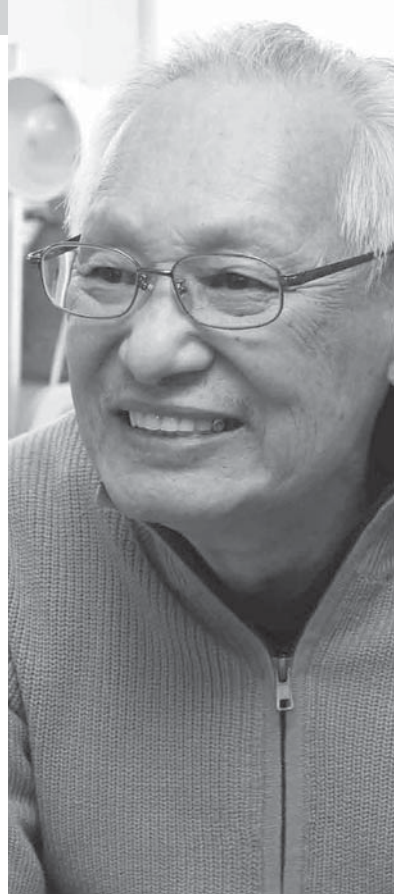
市内の風景画を多く描いている

心温まる作品を生み出す

柗瀧 宏郎さん

ますがた・ひろを
輪厚在住。

北海道教育大学旭川校を卒業し、中学校の美術教諭と高校の美術講師を務めた経歴を持つ。その後、道都大学で絵画と陶芸を教え、平成15年に退職した。現在は制作の傍ら高齢者の学びの場・北広島時習学園の副会長として活動している。



ほのぼのとした作品

昨年秋の元気フェスティバルでは、北広島時習学園のコーナーで、子どもたちが楽しそうに「きたひろ まいピー」の素焼き人形に色付けする姿が見られた。

人形500体は、北広島時習学園の皆さんが手間を掛けた作品だ。中心になって指導したのは柗瀧宏郎さん。輪厚に工房を構える画家・陶芸家だ。

今年も仲間と一緒に人形を作ろうと考えている。「数年前に体調を崩し、あまり無理はできないのですが、子どもたちが喜んでくれるので、ゆつくり作りますよ」とにこやかに語った。子どもたちの笑顔がまた見られるのを楽しみにしている。

輪厚に工房を移して

道都大学デザイン学科の講

制作の楽しさを 多くの人と共有したい

師を引き受けたのが北広島に関わるきっかけだった。平成

15年の退職後に新富町に移り住み工房を構えた。23年には自宅と工房を輪厚に移し、豊かな自然に囲まれ、制作に打ち込んでいく。ひ孫も含めた四世代で暮らし、にぎやかな毎日だそう。「市内をあちこち探し、今の場所に落ち着きました。緑が多く、空気もきれいで、気に入っています。野鳥やリスなども庭先を訪れるんですよ」と語る。

工房にはフクロウや猫、犬、魚など動物の陶芸作品がずらりと並んでいる。一つ一つ表情が違い、笑った顔、酔っ払った顔など、ずっと見ていると飽きないほど面白い。

3月末まで夢プラザでも作品を展示し、来場者を和ませた。展示期間が終わり片付けする時に「もう終わるの？ 寂しいね」と、声を掛けてくれる人もいたそうだ。

灯りの魅力を伝える

柗瀧さんは旭川出身。大学で美術を学び、公立中学校や高校で教えた。結婚を機に、妻の実家である電器店の仕事に就いた。このころ、照明について学んだことが、第30回ふるさと祭りの電飾イベント「エルフィン（おとぎ）の灯（あかり）」で生かされた。暗い中に浮かび上がる花や妖精など、色とりどりの絵柄を来場者が楽しんだ。「当日はたくさんの方が来て、喜んでくれました」と今も懐かしむ。他にも、子ども向けの催しで、ランタン作りを指導し、明かりの魅力を広めた。

夫婦で仲良く活動

かつてはスポーツマンだった柗瀧さん。高校・大学ではバレーボールの選手で国体に出場したそう。妻の良子さんもバスケットボールの選手だった。平成14年に、良子さん

がキャディーをしていた体験をまとめて本を自费出版した時は、柗瀧さんがユーモラスな挿絵でページを飾った。

現在は共に北広島時習学園の役員を務め、高齢者同士の交流に尽くしている。「北広島時習学園は今年で創立25周年を迎えました。これからも学びながら、レクリエーションをしたり、温泉に行ったり、楽しく活動したいですね。会員の皆さんと顔を合わせることが、生活の張り合いになっていきます」と話した。

北広島（きたひろしま）の風景を描く

柗瀧さんの描く北広島（きたひろしま）の風景画を見せてもらった。普段目にする何気ない風景が、色鮮やかな水彩で描かれている。このまちに寄せる愛情を感じさせる絵だ。

これからも作品を通して、まちの魅力を伝えていくことだろう。

